



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 仏法は 心身の免疫力を高める

今年も春が巡ってきました。冬が殊の外寒かったため、一層春の訪れが待ち遠しく感じられますね。だが、春の訪れは嬉しい反面、悩ましい面もあります。春は花粉症の季節でもありません。その上、西風に乗ってやってくる黄沙とともに、PM2.5なる厄介な粒子が混じっているというので、四六時中マスクが放せない人が増えています。

あるお参りの時、マスクをはめて、腫れぼったい目つきをしている人が多いのです。「暖かくなってきたこの季節に、マスクをかけるのは辛いことですね」と声をかけると「ええ、大変です。我が家も空気清浄機を買いました」と言われる。「北京で空気清浄機がよく売れていると聞きましたが、日本でも空気清浄機が売れているのですか？」とびっくりさせられました。

空気清浄機に依存せず、もっと免疫力を高める方向に努めることが大切なのではないか？勿論、地球環境の改善に協力して観智を傾けることは必要ですが、人間として心身ともに免疫力を高める努力が必要なのではないかと、思いますがいかがでしょうか？

最近、医学の世界で「精神免疫学」と

言うのが注目されているそうです。「食欲はまだ大丈夫ですが、よく眠れるようになりまして」という患者さんと、「夜は何とか楽に眠れるようになりましたが、まだまだ食が進みません」という患者さん。両者を比べると、明らかに前者の方が快復が早いというのです。つまり、「心の持ち方」が身体の快復力を高めている、ということです。

「心の持ち方」とは、人生の苦悩に対する免疫力でもあります。

あるおばあちゃんは、五人の息子さんの中、四人まで戦死されたのでした。唯一戦地から戻ってこられた息子のお嫁さんが「おばあちゃん、寂しくはありませんか？」と尋ねました。その問いに対して「ないものを欲しがらず、あるものを喜ばしてもらったよ。あんたたちのお蔭でわしゃ、有難いよ！」と言われ、お念仏の声が続いたのだそうです。

まさに、精神免疫力抜群のおばあちゃんだと敬服、脱帽するばかりです。このおばあちゃんの中に、どうしてこんな力強い免疫力が養われたのか？それは「念仏者は無碍の一道なり」(歎異抄)と言われる親鸞さまの「門徒にはいつしか備わる智慧ある生き方なのだ、

## ☆行事ご案内☆

### ◇4月の門信徒会例会 4月21日(日)夜7時半

新世話方選出の選挙開票、新年度行事長、会計の選出  
新旧の行事さんお集まり下さい!

3月末に選挙用紙配布、4/21夜までに行事さんが回収  
例会の場で開票、皆様のご協力よろしくお願ひします。

### ◇キッズサンガ

4月6日(土)午後4時より『集い』お経、ゲーム等  
新しいお友達もぜひどうぞ。毎日5時の鐘つき誰でも可

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、トップページの左  
欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見  
られます。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。

開設4年8ヶ月で10万3千訪問、一日平均100程、コメント大歓迎、一  
面お問い合わせ欄よりのメールや悩み相談には即返信します

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ  
お電話を！5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

◇三重組コーラス 3月25日(火)午後1時半、西勝寺様にて

◇3月27日(水)2時 名古屋芸創で『萌木の響き』発表会

◇4月20日1時半三全仏主催「初参式&降誕会」光念寺様で

◇5月19日(日)午前：総会、午後『公開法座』(末本弘然師)

## 2013年4月 写真アラカルト



左、境内の紅梅、  
右、いとこ同士で仲良し！  
満1歳の亮爾と生後3か月の樹  
僕だってお守りできるよ！

と思うのです。  
「人生は苦なり」というお釈迦さまの  
メッセージは、「苦悩を引き受け、乗り  
越える生き方」への大転換を促します。  
「仏法は心身の免疫力を高める」。混  
迷の世に、強くアピールしたいと思いま  
す。



垂坂山新展望台から見た日の出  
毎朝合掌してからラジオ体操。  
身も心もスッキリ目覚め！



キッズサンガ、賞状と記念品がご本山や別院から届く。  
子供たちは大喜び！4月から新しいお友達も入会どうぞ  
お経や作法など自然と身に付きます。

# 坊守スケッチ

## 苦を喜びに変えた作家



「丹羽文雄氏生家の前住職さんが亡くなられましたね」と、散歩中出会った人から声をかけられた。私達を寺の人間だと知ってのこと。作家の丹羽文雄氏は、日本文芸家協会会長を歴任し、文化勲章受章者でもある。市立図書館や博物館には丹羽文雄コーナーが常設され、郷土が誇る名誉市民でもある。丹羽氏の生家は真宗高田派のお寺で、直接交流は少ないが面識はある。寺に嫁いだ当初、お寺出身の作家であり、私と同じ高校の先輩ということに興味を持ち、初めて丹羽作品を読んだ。生家を取り巻くドロドロした人間関係とその生い立ちを知って驚いた。

(実話に基づく私小説であり、赤裸々にこんなこと書かれたら、家族や親戚はたまったものではない。お寺に残る者の身にもなったらいいのに。ただでさえ檀家や地域の目が厳しい土地柄なのに)というのが正直な感想だった。散歩中の会話がきっかけで再び丹羽作品を読みかえしてみた。すると以前とは違った感想を持った。丹羽氏の父は在家から寺に婿養子に入った。生母はその時まだ十歳。祖父の前住職は早世し、若き未亡人の祖母と青年僧侶の娘婿との異常な関係が生じた。生母が

夫になる人と母親との関係を知ってショックを受ける。生母は二人の子供を置いて旅役者を追って家出した。その後五人の男性と出会いと別れを繰り返す自由奔放な生き方をした。檀徒会議で祖母は隠居させられ、父も三度の後妻迎えて腹違いの弟妹が誕生した。大学を卒業後、長男の丹羽氏は得度して寺の後継者になろうとしたが、作家の夢は捨てきれず、家出して東京。自分の母親をモデルにした小説を次々に発表して一躍有名作家となる。姉は世間の目に耐え切れずアメリカに渡って結婚。生涯母親を怨んだ。丹羽氏は作品の中で次のように語る。

「母親の醜態を書くことは、息子である私の醜態を書くことでもある。役者狂い、二号生活等、恥ずかしいことや辛いことを正直に書いた。母に悩まされ続けた半生であった。私には息抜きが欲しかった。もし救いがあるならそこに辿り着きたかった。坊主の子はやはり坊主だ。すらすらと親鸞の思想に入っていくことができた。小説家の意欲を二〇年の長きに渡って掻き立て、常に作品のモデルになってくれた母親であるが、偉大な女性だったと感謝する。私は母の子であったことを嬉しく思う。母は私の人生に対する開眼の

動機となってくれただけではなく、魂の開眼の動機にもなってくれた。母あればこそ親鸞にも近づけた!」

苦から逃げず、ありのままの人生を自ら引き受け、それを親鸞に出会えた喜びに変えた作家として、丹羽文雄氏はやはり偉大な郷土の作家だと思ふ。

### ☆寄稿

四日市市川崎孝一

☆亮チャンが 歩む稽古の

所作の音 受話器に洩れて

一歳に充つ

☆鐘樓の 自動撞木は 厳冬も

間合い均しく 明六つ告げる

☆古い鴉 即かず離れず

間を置いて 此方と対峙

夕の暫時を

☆白頭鳥は 葉牡丹好むか 周到に

目配りしつつ たらふく食べをり

四日市市 A・O

☆水仙の 花に向かえば 芳しき

心になりて 春を手取る

### ☆ホットニュース

☆4年に一度の善正寺の新役員(世話方)を決める選挙が行われます。行事さんが3月末に用紙を配布。4月21日夜例会までに回収し、その日開票。5月19日午前の総会で新しい人選を発表。皆様の協力よろしくお願ひします。

☆4月21日夜の例会には平成25年度新行事さんも出席お願ひします。新行事長(門信徒会長)さんと会計を選出。該当者にはあらかじめ連絡。

☆初孫亮爾が3月13日満一歳の誕生日を迎えました。最近では伝い歩きができるようになりました。大人のいうことも少しずつ理解でき、育てる方の責任も重大です。これからも皆様の温かいお育てをよろしくお願ひします。

【平成25年度今後の善正寺行事予定】

※5月19日(日)午前総会・午後「公開法座」講師末本弘然師(大阪)(初)

※8月24(土)・25(日)『秋季永代経』

講師足利孝之師(尼崎)

※9月22日(日)午前・午後『小杉町仏教会追悼法要』講師鎌田宗雲師(滋賀)

※11月2日(土)午後・夜3日(日)午前『報恩講』講師藤大慶師(京都府)

※11月23日(土)午前秋勸進

※12月7日(土)夜『お内仏報恩講』

※12月31日夜11時45分除夜の鐘

◇その他、毎月第3日曜日夜7時半より『門信徒例会』

☆カンパ有難う☆

飛鳥一枝様・澤田美智江様・他匿名様より頂戴しました。感謝!

お悔やみ申し上げます

★野地正江様(2月27日・72歳)

四日市市) 合掌

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第232号をお届けします。◇「アベノミックス」効果で、多少は明るい雰囲気。しかし、老いも若きも苦悩は深い。◇子育てや雇用難、介護現場の悩み等、苦悩の現場に仏教がどう向き合うのか、自問自答。合掌

大震災から二年目の春を迎えました。被災地では今もなお傷跡は生々しく復興途上です。奇跡の一本松をモニエメントとして残す動きがあります。過去の経験は忘れず後世に伝えるためにも大切なことです。世間ではアベノミクス効果と浮き足立っているようですが、社会の片隅ではその恩恵が実感できない人も大勢います。東の間の好景気に終わらないように、今こそ気を引き締め、将来を見据えて支え合ひましょう。金城学院大学学長の柏木哲夫氏が中目新聞(2/23)で「老いを楽しむためには、祈り・音楽・ユーモアの三大要素が必要だ」と言われました。中でもユーモアは、苦しみ多き人生を生き抜くためには重要な要素。人間だけに与えられた崇高な能力です。ユーモアによって自分自身を客観視し、絶望的な状況からも救われ、柔軟な生き方ができます。ある老夫婦の例を紹介しましょう。「長生きの秘訣を尋ねれば息をするのを忘れぬこと」「合めぬはずジーンズそれは私の適など、ユーモアで老いを横へ吹き飛ばして明るく毎日を送っている。老いを喪失期と捉えて、元氣なく過すか、ユーモアで前向きに過すかはその人次第です。」「方守スケッチでも書いたように、「苦を喜びに変えていく力」は、日頃の心構えです。「生きていてよかた、皆えんありがとう」と最後の日に言える人生を送りたいものです。花粉症の季節、くれぐれもご自愛下さいませ。合掌

平成二十五年四月

善正寺坊守輝